

平成26年度島根県地域相談支援ワークショップ 2015.2.14

働き暮らせる地域をつくる

<がんの特色と他文脈との共通点>



国立がん研究センター がん対策情報センター
がんサバイバーシップ支援研究部 高橋 都
miyataka@ncc.go.jp

「仕事」にもいろいろあります

会社勤務

自営

家業



町内会

ボランティア



本日の話は「がん」に限ったこと ではありません

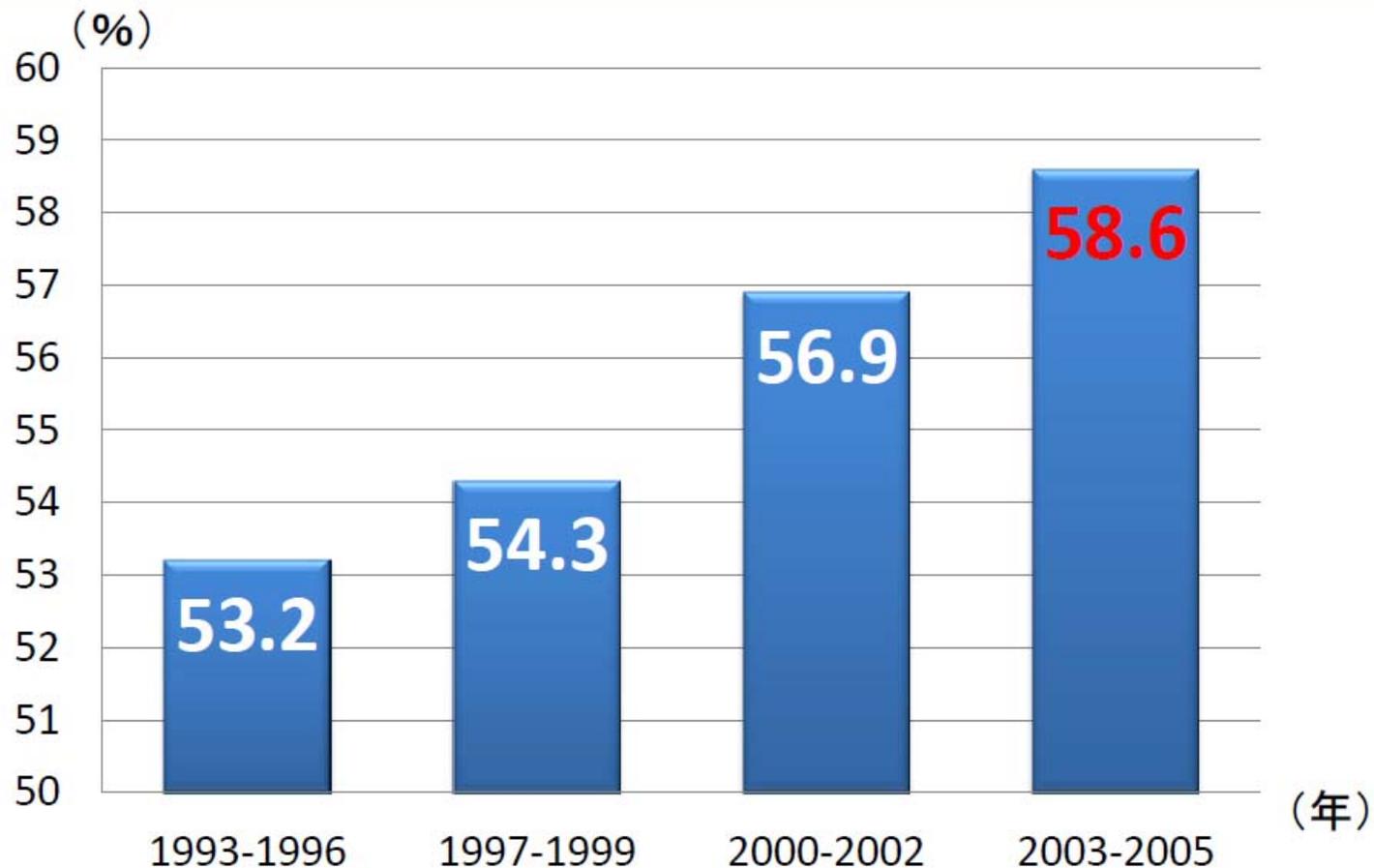
- 子育て、介護
- 一人親家庭
- 病気やケガ（特に労災以外の私傷病）
- メンタル不調

・・・など

何らかの「働きにくさ」との共通点があります
「がん」の特色を考えながらご参加ください

がんの5年相対生存率（全がん）の推移

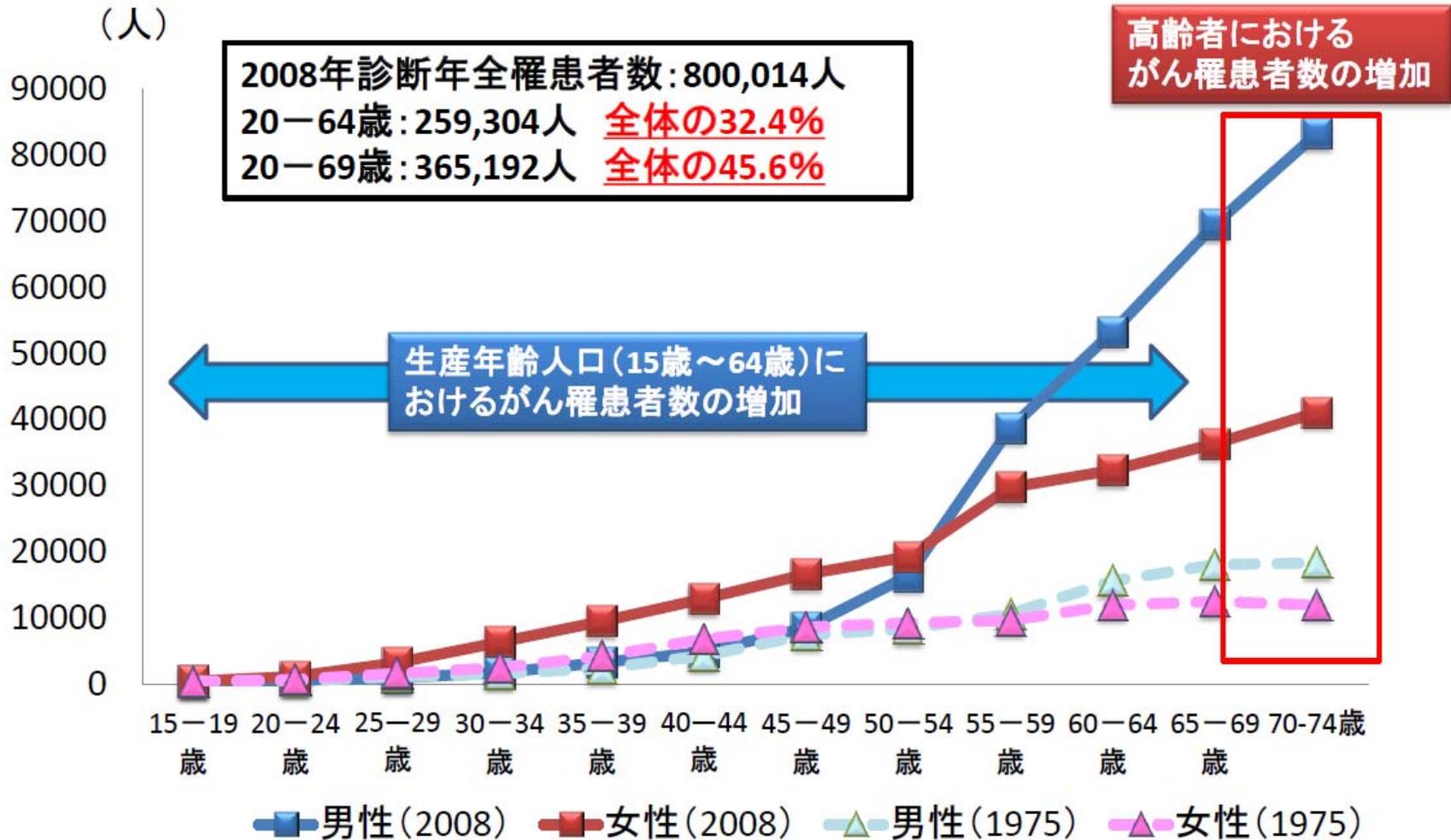
がん医療（放射線療法、化学療法、手術療法）の進歩は目覚ましく、生存率は上昇している。



(出典) 地域がん登録に基づき独立行政法人国立がん研究センターがん対策情報センター⁴が集計

性別・年齢別がん罹患患者数

がん患者は増加しており、うち3人に1人は就労可能年齢で罹患



日本人のがんイメージ調査2011

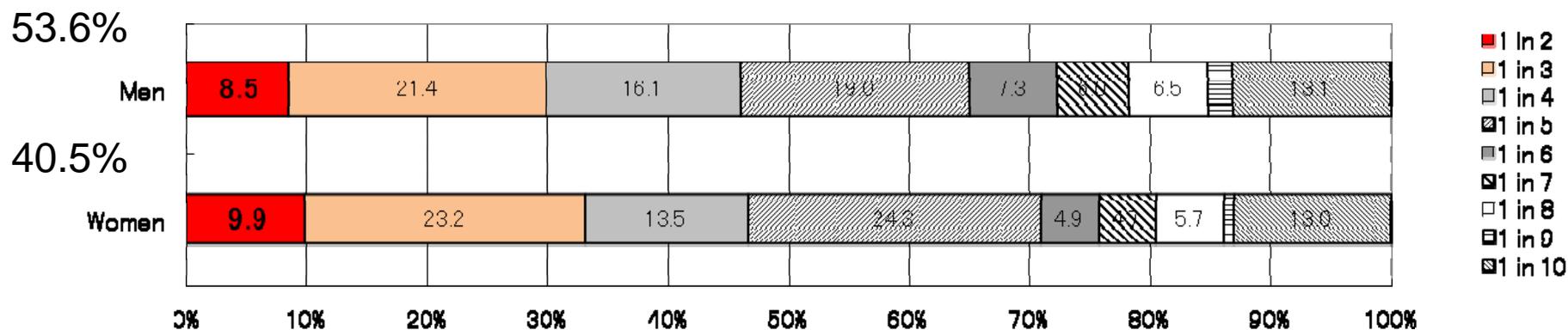
JJCO Japanese Journal of Clinical Oncology
 Jpn J Clin Oncol 2012
 doi:10.1093/jjco/hys125

Original Article

Discrepancies Between Public Perceptions and Epidemiological Facts Regarding Cancer Prognosis and Incidence in Japan: An Internet Survey

Miyako Takahashi^{1*}, Ichiro Ka² and Takashi Muto¹

生涯がん罹患率回答分布



「日本人の二人に一人ががんになる」と知っている人は
1割もない!

日本人のがんイメージ調査2011

JJCO Japanese Journal of
Clinical Oncology

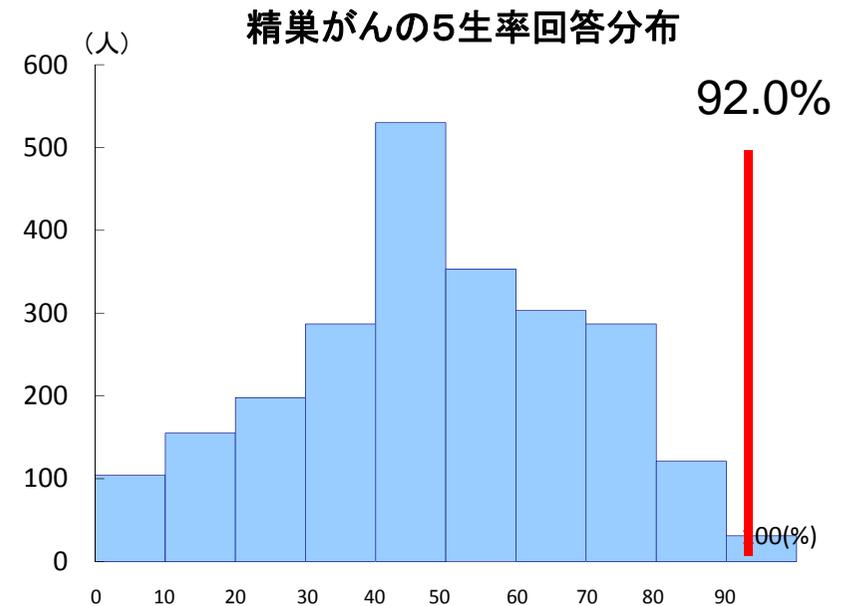
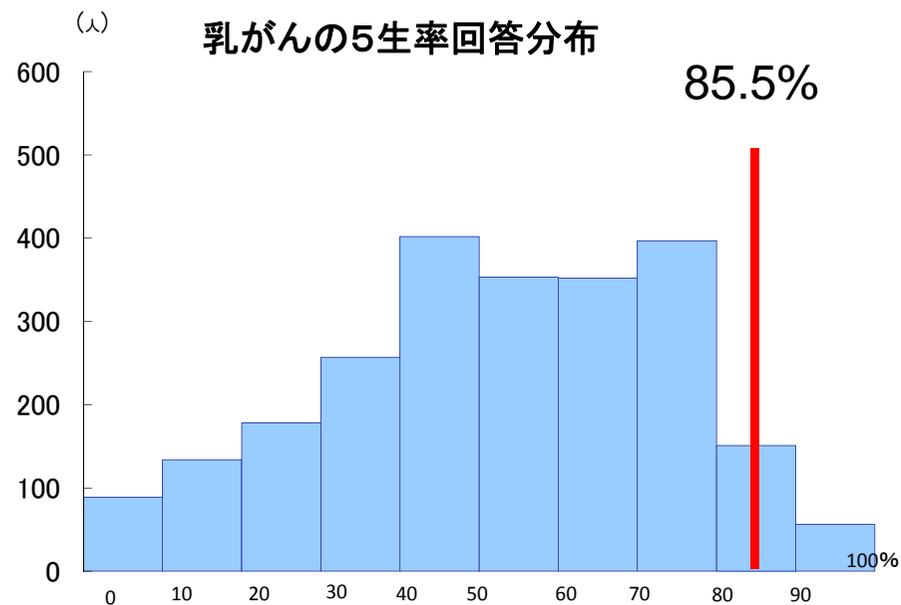
Jpn J Clin Oncol 2012
doi:10.1093/jjco/hys125

Original Article

Discrepancies Between Public Perceptions and Epidemiological
Facts Regarding Cancer Prognosis and Incidence in Japan: An
Internet Survey

Miyako Takahashi^{1,*}, Ichiro Ka² and Takashi Muto¹

がんは、現実よりも「治りにくい病気」と認識されている



仕事とはあなたにとって…？

- 収入の糧
- 生きがい
- 生活の満足度をあげるもの
- 自分を活かすもの
- 自分のアイデンティティ
- 社会に貢献する方法



第2次がん対策推進基本計画と「就労」

- 「重点的に取り組むべき課題」として
「働く世代や小児へのがん対策の充実」が明記
- 「全体目標」の一つとして
「がんになっても安心して暮らせる社会の構築」が
明記
- 「分野別施策と個別目標」に
「がん患者の就労を含めた社会的な問題」が明記

働くがん患者への支援に向けた国の取り組み

- ◆がん対策推進基本計画への「就労支援」の明記
- ◆厚労省「がん患者・経験者の就労支援のあり方に関する検討会」
- ◆がん診療連携拠点病院への社労士等の配置
- ◆ハローワークにおけるがん罹患者支援と病院への出張相談（全国12か所のモデル事業）

試行錯誤は続くものの、着実に変化のきざしが・・・

がん患者・経験者の就労支援のあり方に関する検討会報告書 概要

「らしく、働く ～仕事と治療の調和に向けて～」

平成24年6月に閣議決定されたがん対策推進基本計画では、全体目標に「がんになっても安心して暮らせる社会の構築」が新たに加えられ、重点課題として「働く世代へのがん対策」が位置づけられるとともに、がん以外の患者へも配慮しつつ、3年以内にかん患者等の就労に関するニーズや課題を明らかにした上で、社会的理解の推進や就労支援策を講じることとされた。

がん患者・経験者とその家族の就労に関するニーズ・課題

○ がん患者・経験者（がん患者等）とその家族

- ・がんや治療に伴う身体的・心理的・社会経済的な問題
- ・病状等の説明力が十分ではない
- ・相談先がわからない
- ・職場等に病状を伝えにくい

○ 小児がん経験者

- ・晩期合併症による就労が難しい
- ・自立性や社会性の獲得が十分ではない
- ・就学、進学、就労の連携が十分ではない
- ・既存施策が十分に活用されていない

○ 医療機関

- ・がん患者等の就労ニーズの把握が十分ではない
- ・就労継続を意識した説明、声かけが十分ではない
- ・就労支援に関する知識、技量、情報が十分ではない
- ・職場との情報共有が十分ではない

○ 企業

- ・がんは私傷病であるため、手厚い対応が難しい
- ・相談体制、情報が十分ではない
- ・病状の把握が難しい
- ・主治医と産業保健スタッフ（産業医・保健師等）との連携が十分ではない
- ・経営的な負担がある

○ その他

- ・国民のがんに対する知識が十分ではない
- ・関係者の連携が十分ではない
- ・活用可能な制度の周知が十分ではない

相談先がわからない、活用できる既存の制度・仕組みを知らない。

就労支援の取組

○がん患者・経験者とその家族

自身ができることを伝える



- ・自身の病状を理解し、自分ができることや配慮して欲しいことを明確に伝える

小児がん経験者

- ・拠点病院や小児がん拠点病院等の相談支援センターの活用
- ・HWの就職支援メニューの活用
- ・HWにおける企業との効果的なマッチング

等

○ がん診療連携拠点病院



「今すぐに仕事を辞める必要はない」と伝える取組

- ・がん患者の就労に対するニーズの把握
- ・就労継続を意識した治療方針説明の強化
- ・就労に関する知識を有する専門家（社会保険労務士等）と連携した相談対応
- ・土曜・休日の診療の試行的取組・医療従事者や相談員に対する研修の実施
- ・患者会との連携

等

○ 企業



がん患者等の人材活用

- ・がん患者との認識の共有
- ・がん患者と主治医と産業保健スタッフ（産業医・保健師等）が連携した病状、配慮事項の共有
- ・地域窓口（地域産業保健センター）と連携した相談支援、人材育成の体制整備
- ・従業員に対する研修の実施

等

○ハローワーク（HW）等



就職支援制度の周知と活用の推進

- ・がん患者等に対する就職支援モデル事業の拡充
- ・就職支援に関するノウハウ・知見の共有
- ・就職支援メニューの活用推進
- ・チーム支援
- ・トライアル雇用奨励金
- ・ジョブコーチ支援制度
- ・特定求職者雇用開発助成金
- ・産業保健総合支援センターの活用推進

等

○ その他（国民の理解・国の取組等）

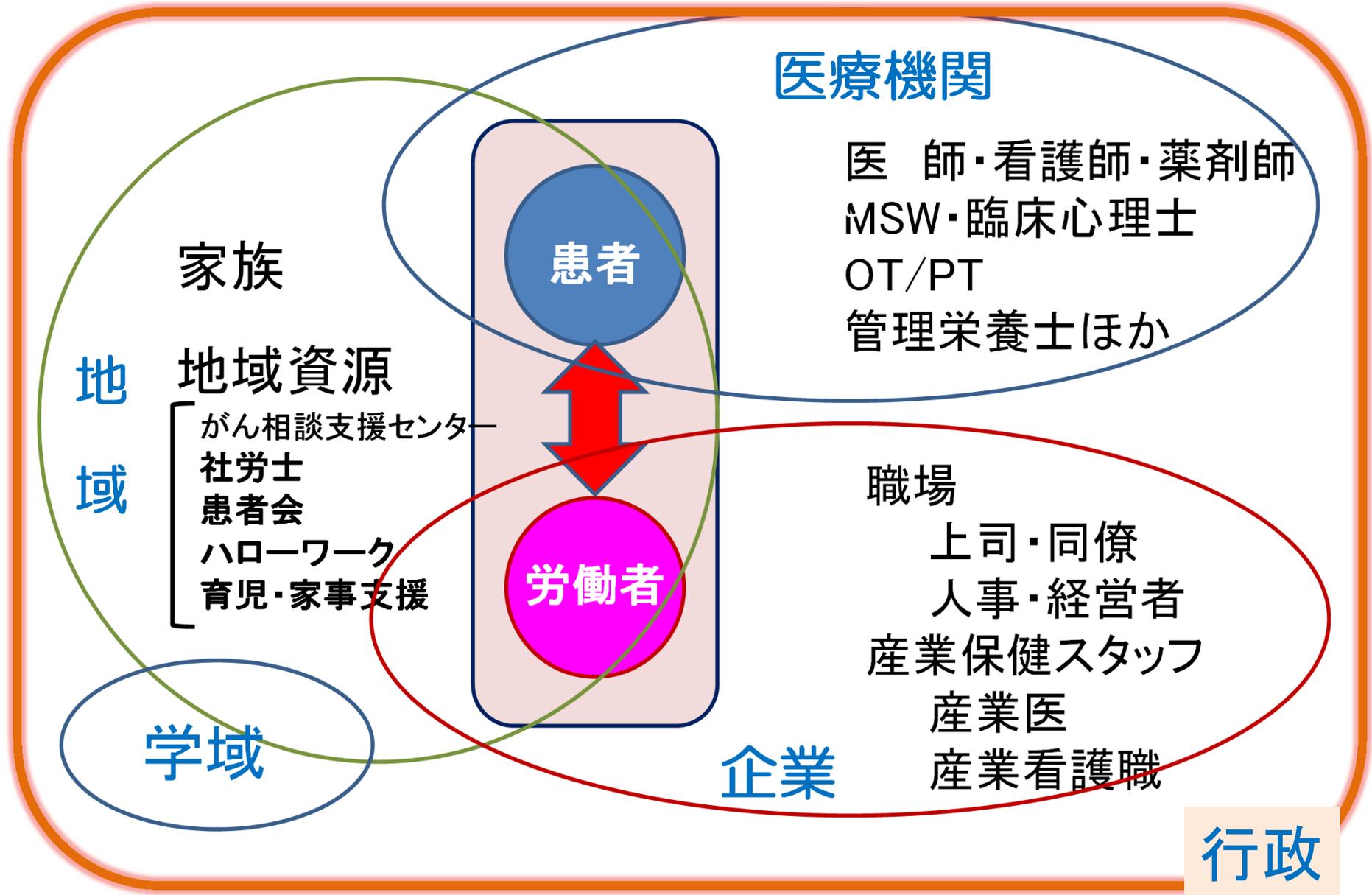
がんと就労の理解と関係者の連携の促進

- ・国民への普及・啓発
- ・情報発信
- ・がん教育
- ・好事例の収集及び当該企業の表彰による後押し
- ・市民公開講座の活用

等

病気になっても自分らしく生き生きと働き、安心して暮らせる社会の構築

働くがん体験者を取りまく人たち



「がん」は特別ですか？

- メンタルヘルスとの違いは？
- 心血管障害、感染症、外傷などとの違いは？
- 障害や難病とのちがいは？
- 「なぜ“がん”だけ？」という疑問はなぜ生まれる？



多くの人困っていること

がん治療と就労の両立に関するインターネット調査報告書参照

<http://www.cancer-work.jp/>

医療費や家計の確保は？

会社にはどんな
支援制度がある？

仕事の引き継ぎは？

職場の誰にどう言う？



がんを公表して
不都合はないか？

迷惑をかける前に
やめるべきか？

体調の波への対応は？

平日昼間の通院時間を
どう確保する？

合併症をわかって
もらうには？

再就職時に病気を
告げるべきか？

周囲に配慮して
もらうには？

会社も困っています①

関東地区 規模・業種は様々の事業所6社

□ 病名や病状の情報不足

- ・ 病名がわからないときの対応 「何か様子がおかしい」
- ・ 病名がわかっても、病状(個人情報)の把握ができないときの対応
→どこまで無理がきくのか、見通しはどうか？
→治療する医師との連絡は？



□ 本人の就労力の変化 (波がある、完全には元に戻らない)

□ 同僚の不公平感への対応

「同じ給料なのに・・・」「カバーするほうだって大変！」

□ 企業活動の質の維持と従業員支援のバランス

「はっきり言って、企業はボランティアではない」

「長年貢献してくれた従業員に働いてもらえなくなるのは、実は心苦しいです」

会社だって困っています②

関東地区 規模・業種は様々の事業所6社

◆ほしい支援

- 同業他社はどうしているのか知りたい
- 企業のわくを超えて困難事例を相談できる窓口がほしい
- 主治医とコミュニケーションをとる具体策がほしい
病状把握のための派遣保健師など
- 対応Q & A集があればよい
- 人事向け勉強会があれば参加したい



- 企業側のコスト負担が少ない対応策が求められている
- 就業規定に差がある（事業主の思想、企業文化、労組の力）
- 具体的な対応ノウハウが求められている
- 産業医・保健師への期待度は企業差あり

がん治療医の戸惑い

- ◆ 仕事のことを根掘り葉掘り聞いて、患者さんが気を悪くしないか？
- ◆ 会社員・・・と言われてもわからないし・・・
- ◆ 「就業配慮」の意見を求められても困る
- ◆ がん患者は果たして仕事をしたいのか？

- ◆ がん患者を「社会人」とイメージできるか？
- ◆ 事業場と過不足ない情報共有ができるか？
- ◆ 就業配慮について適切なアドバイスができるか？



同じ病気でも仕事への影響は 人によって異なります

本人

- 治療内容
- 合併症や副作用の出方
- 心身の回復程度

会社

- 業種, 職務内容
- 職位
- 職場の雰囲気

家族

- 本人が働くことへの考え

それにしても、なぜなんでしょう？

- なぜ「がんになった」と言いにくいのか
- 職場はなぜ「がんになったら戦力外」と思いがちなのか
- 医療者も「がんだから無理することはない」と思っていないか？



「がん」は一人一人違うのに、
特定のイメージにくくられてしまっている・・・

医療スタッフができること

**治療スタッフ・相談スタッフだけで
就労問題は解決できないが、
関わることで状況が大きく変わる！**

- すべての患者・家族は医療機関にかかる**
- 仕事への情報ニーズが高まっている**

治療スタッフによる就労支援

医療者自身の
内なる「がんイメージ」は？

◆確定診断がついたとき

- 患者が早まって退職しないよう、**就労継続を勧める。**
- 就労関連の情報が集まっている院内相談窓口や相談員がいる場所を教える。

◆治療プロセス全体を通じて

- 治療計画や予想される副作用について、**わかりやすく説明し、文書化する。**
- 可能な範囲で、仕事と両立しやすい治療スケジュールを組む。
- 必要であれば、患者本人の承諾のもと、職場関係者や産業保健スタッフから連絡してもらってよいことを伝える。
- 職場からの質問は具体的にしてもらう。
- 勤務先近くで治療や経過観察が可能な医療機関があれば、適宜連携をとる。

職場での対応に役立った/妨げになった主治医のアクション (古屋他:産業衛生学会, 2014)

ポイント	具体的内容
<p>治療内容、スケジュール、副作用、病状の共有が できているか？</p>	<p>○詳しい治療内容やスケジュールを提供してくれた。 ○具体的な治療日・外来受診日・化学療法の副作用が強い日がわかった。</p> <p>×診断書には大きなくりの病名のみで、詳細な情報がなく、就業配慮に職場の納得感が得られなかった。</p>
<p>円滑に情報共有ができ ているか？</p>	<p>○問い合わせの都度、迅速に対応してもらえた。</p> <p>×傷病手当金の記載を拒否された。 ×複数の治療医の間で判断が異なった。</p>
<p>就業上のコメントは 妥当か？</p>	<p>○具体的な就業配慮の提案があり、現場で役に立った。</p> <p>×復帰指示日が早すぎたため、体調不良から結果的に欠勤が増えた。 ×契約内容を無視したコメントが出され、対応が複雑化した。 ×患者本人の言いなりとも思われる内容だった。</p>
<p>患者と主治医の コミュニケーションは 良好か？</p>	<p>○患者への説明がわかりやすく、本人がよく理解できたため、本人から職場への説明力が上がった。 ○本人が治療医にざくばらんに質問できるため、治療医と職場の仲介役になった。</p> <p>×患者本人が治療や病状に対してほとんど理解していなかった。</p>

職場での対応に役立った/妨げになった主治医のアクション (古屋他:産業衛生学会, 2014)

ポイント

企業側が適切な就業配慮を実現するための**主治医の課題**

- ◆わかりやすい情報共有
- ◆円滑なコミュニケーション
- ◆助言の妥当性担保

会社側が何を知りたいか、
主治医にわかりやすく質問する

×患者本人が治療や病状に対してほとんど理解していなかった。

特に看護師に期待される支援

- 動いて「つなぎ」になろう
- 医師は「早まってやめないで」と伝えたか？
- 確定診断がついた日に、相談室の場所を教えること
- 本人の働く意欲や心配事を聞く
- 入院中は支援教材を渡すチャンス



特に相談員に期待される支援

- 医師、看護師の役割と共通点あり
- 相談者は「相談したい」と思ってやってくるので、遠慮しないで就労状況をよく聴きとる
 - 雇用形態（正社員・派遣・パートアルバイト・自営・家業等）
業務内容/勤務期間/就業規則の把握度/
周囲との人間関係等
- 医療費の話から、働き方の話につなげてみる
- 就労専門家につなげられる立場（社労士、HW、キャリアコン）
- 就労専門家につなげるときにも、
相談員がいる安心感を提供したい



職場関係者ができること

がん罹患者を支援することによる 事業場へのメリット

- 能力と意欲のある従業員の活用→企業活動への効用
- がん体験が従業員としての強みになることもある
(いろいろな従業員がいることの強み)
- 支援への感謝→事業場への忠誠心
- 他の従業員への影響→事業場全体の士気

働くがん患者と事業場が両方とも納得できるような
方向性を見出せないだろうか？

事業場側の工夫例

http://special.nikkeibp.co.jp/as/201401/work_with_cancer/

- ◆使える制度（就業規則）や医療費補助の情報を早期から提供する
- ◆カバーに入る同僚が不満をもたない配慮をする
 - ・ カバーへの評価、感謝
 - ・ 仕事の再配分
 - ・ 就業時間が増えた場合の社保費用などの考慮
- ◆復職時の状況でイチゼロ判断をせず、3か月程度ごとに対応をトライ&エラーで修正していく
- ◆産業保健スタッフの技を最大限活用する

企業向け支援マニュアル目次

<http://www.cancer-work.jp/tool/index.html>

1章 上司・同僚にできること



2章 人事労務にできること

1. 社内規則などの確認と見直し
2. 緊急事態への対応・ルール化
3. 休業・求職者情報の取得とプライバシーへの配慮
4. 事例発生時のがん就労者への説明時事項
5. 人事としての就労配慮への関わり方
6. 社内外の連携

3章 事業主にできること

1. 職場としての方針の明確化
2. 風土づくり
3. 体制づくり：
役割や制度の見直し、情報共有のしくみ、産業保健スタッフの確保



働く意欲と能力がある
あなたができること



「がん情報サービス」は、がんについて信頼できる、最新の正しい情報をわかりやすく紹介しています。
下側に並んだ項目からご覧になりたいものを選んでお入りください。

[詳しい使い方はこちら](#) ▶



<p>それぞれの がんの解説</p> <p>診断から療養まで</p> 	<p>診断・治療</p> <p>検査や治療、 臨床試験について</p> 	<p>生活・療養</p> <p>食事や治療中のケア、 支援制度など</p> 
<p>冊子・資料</p> <p>冊子や資料、 講演会の記録など</p> 	<p>がん登録・統計</p> <p>がん登録の仕組み、 がんの統計情報など</p> 	<p>予防・検診</p> <p>がんの原因や 予防について</p> 

おすすめページ

<p>もしも、がんと 言われたら</p> 	<p>ご家族、 まわりの方へ</p> 	<p>がん情報サービス サポートセンター</p> <p>0570-02-3410</p> <p>(ナビダイヤル 平日10時~15時)</p> 
<p>がんの 臨床試験を探す</p> 	<p>地域の療養 情報冊子</p> 	<p>音訳・点訳資料</p> 

病院を探す

がん診療連携拠点病院
小児がん拠点病院
緩和ケア病棟などを探せます



 **がん相談支援センターを探す**

療養生活に役立つ

患者必携

→ 患者さんの手記



がんと共に働く
まず一歩前へ。



がんと仕事のQ&A 第2版

1. 診断から復職まで
2. 復職後の働き方
3. 新しい職場への応募
4. お金と健康保険
5. 家事や子育て

81のQ&Aと47のコラム



Q&A集冊子体の申込み方法

独立行政法人国立がん研究センターがん対策情報センター
がん情報サービス ganjoho.jp

このサイトの使い方 お問い合わせ サイトマップ

一般の方へ 医療関係者の方へ **がん診療連携拠点病院の方へ**

がん診療支援 研修・セミナー 院内がん登録 **がん相談支援センター** 都道府県拠点病院連絡協議会

TOP > **がん相談支援センター** > **がん相談支援センター相談員サポート** > がんの冊子のご案内(発注システム、ポスター、ちらし)

がんの冊子のご案内(発注システム、ポスター、ちらし)

更新日:2014年10月23日 掲載日:2012年02月02日

1. **がん情報サービス刊行物発注システムのご案内** 2. **がんの冊子** ポスター、ちらし

がん情報サービス刊行物の発注システムについてのご案内、がんの冊子のポスター、ちらしを掲載しています。

1. がん情報サービス刊行物発注システムのご案内

■がん情報サービス刊行物について

国立がん研究センターがん対策情報センター(以下、「当センター」)では、さまざまな種類からなる「がんの冊子」、がん患者さんにとって必要ながんに関する情報を取りまとめた「患者必携」など、患者さんや家族、一般の方向けの情報を作成しております。これらの情報は、「がん情報サービス」(<http://ganjoho.jp/>)に掲載しており、無料で閲覧、PDFのダウンロードが可能です。

■がん情報サービス刊行物発注システム

配布用途の「がんの冊子」について、がん診療連携拠点病院などのご活用いただける施設向けに、当センターが外部委託した印刷会社より発注・調達できるサービスを開始しました。このシステムは、個々の施設ごとの印刷発注による方法に比べ、多くの部数をまとめて印刷することにより、経済的かつ簡便に必要な冊子をご利用いただくことを意図したものです。



◆ 「がん情報サービス刊行物発注システムのご案内」

http://ganjoho.jp/hospital/consultation/info_brochure.html

- ★医療機関、患者会、勉強会など、組織でIDをとれば注文可能
- ★2版は1セット20冊/3000円
- ★3か月に1度の注文締切

支援を待つのではなく引き出そう

- 時間はある。作戦を練ろう。（早まらない）
- 自分が持つ権利を知ろう。（会社・社会）
- 治療計画と自分の病状を把握し、説明しよう。
- 配慮してほしいことを明確にしよう。
- できることもアピールしよう。
- 気遣いと感謝は潤滑油。



職場の誰にどこまで言えばいい？

- 心配は取り越し苦労のことが多い
- まずは「わかっているほしい人」に伝える
- 状況変化に従って、継続的に伝えるとよい
(入院前、退院後、復職前、復職後・・・)
- 職場ミーティングで全員に伝える人も多い
- 周囲は忘れるので、しつこく伝える
- ほしい配慮だけでなく、できることもアピールする
- 産業医、産業看護職は通訳になってくれる

プライバシーは守られますか？

- 職場と医療者の情報共有は、本人の同意があることが前提.
- 診断書は必要な人のみに開示される
- 産業保健スタッフにも守秘義務がある



職探しするとき、病気を言うべき？

- その職務内容と応募条件なら配慮が全く必要ない場合、病歴を言う必要はない
(仕事を安全, 確実にこなせるか?)
- 何らかの配慮をしてほしいとき、職場にわかっておいてほしいときには、状況を伝えたほうがよい
- そのうえで、仕事に遜色がないことをアピール！
- 採用側が知りたいのは、その人が会社に貢献するかどうか
- 就活は<ご縁>です

コラム40 職探しの相談にのる立場から (キャリアコンサルタントの視点)

◆ ポイント1: 今の限界を見極める

今の身体能力で何ができるか、限界をみきわめること。以前の働き方にしぼられず、職務内容も勤務時間も、これなら大丈夫と自信が持てる範囲から始めること。無理は長続きしません。

◆ ポイント2: 働き始めたら自信を持つ

働き始めたら、たとえ病気があっても働いている時間は健康で、他の従業員にまったく引けを取らないという自信を持つこと。そのためにも無理のない仕事を見つけることが重要です。

素朴な言い方かもしれませんが・・・

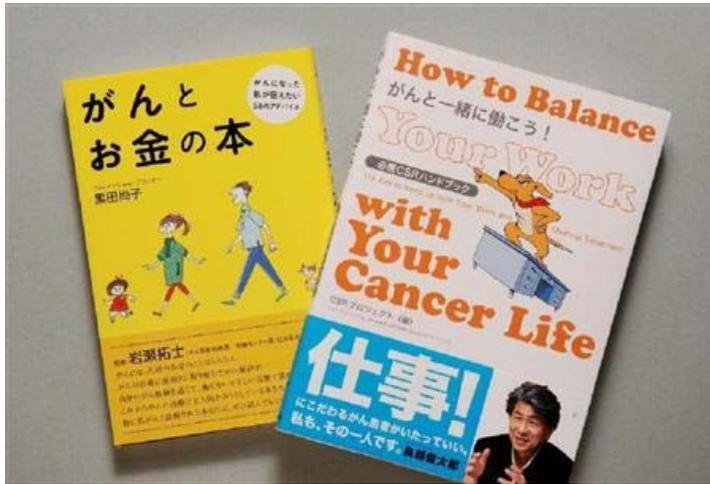
働くがん患者と職場がうまくいく要因

- 働くがん患者自身の精一杯の工夫が周囲に伝わっている
 - カバーしてくれる同僚への気遣い・感謝
 - 仕事が滞らないような配慮
 - 症状をコントロールする工夫
- 現場の上司や同僚、人事、経営者などに、「がん」に興味を持ち、これが会社運営の重要課題だと理解している人がいる
 - がんになっても会社に貢献する人を知っている
 - 自分や家族が体験者



**「就業配慮の実務」も大事ですが、
人情の部分や、関係者がもつがんのイメージ、
そして、ちょっとしたコミュニケーションが
大きく影響するようです**

**はじめから完璧な準備は無理なので、
試行錯誤をしようと決めれば気が楽では？**



がん制度ドック <http://www.ganseido.com/>

患者・家族、医療従事者が使える **がん制度ドック** 無料 ベータ版

このサイトは、がんと診断された方が利用できる
公的・民間の医療保険制度
「お金」に関連した制度をまとめて検索できるウェブサービスです。
現在の病状・体調・ご希望に合わせた制度を探すことができます。

ひとりでも多くの患者さんの
経済的な問題の解消につながりますように。

検索する

※なお現在のシステムはベータ版（公開試用版）であり、
問題箇所の確認の上で、2013年12月の正規公開版へ移行する予定です。
つきましては、ご利用後のアンケートにご協力いただけますようお願いいたします。

アンケートに回答する

一般社団法人CSRプロジェクト <http://workingsurvivors.org/>

一般社団法人CSRプロジェクト 働き盛りのがん経験者・家族・医療従事者・企業ネットワーク

CSRProject
Cancer Survivors Recruiting Project

Home | ホーム | CSR Project | About Us
event | 活動報告 | Outline | 組織概要

会員ログイン
CSRプロジェクト

- サブイベントワークショップ
- 就労ゼミンドポニオン～電話で相談！はっとコール～
- 販売

まだ会員になっていない方

- 個人会員登録
- 賛同団体申込
- 個人会員について

CSRProject
Cancer Survivors Recruiting Project

ビジョン vision
がんになっても皆が幸せに働くことができる社会づくり

ミッション mission
がんと就労に関わる様々な問題の調和と解決

- 発信：がん経験者の自立に向けた情報発信
- 相談：経験者、病院、企業からの就労に関する相談
- 調査：働き盛りのがん経験者が直面する社会的問題に関する調査

特定非営利活動法人キャンサーリボンズ <http://www.ribbonz.jp/>

お問い合わせ | プライバシーポリシー | サイトマップ

キャンサーリボンズ

「がんと働く」リワークノートシリーズ
がん治療と仕事の両立にお役立てください

「がんと働く」リワークノート
2011年11月

自己管理で自立できるとともに、主治医や職場での相談に活用しやすいシートを作成しました。(A5サイズ/40頁)

入手方法
用紙印刷でご購入できます。詳しくは、下記PDFをご覧ください。
・[「がんと働く」リワークノートの案内](#)

「がんと働く」リワークノートシリーズに新ツールが加まりました。
アンケートに答えてダウンロード！

「がんと働く」を考える前に
(患者さんと医療者のコミュニケーションツール)
2013年4月

- 「がんにつきあう」(A5サイズ/4頁)
- 「自分の状況を確認しましょう」(A3サイズ)

体験者からのアドバイスの花束

人と比べないこと。
自分らしく生きることができればヨシ！

自分の力を信じてください。
いいと思ったように、
いいと思ったことを。

仕事のしかたは、
人それぞれです。
あなたのスタイルでOK！



入院中は発症した不運を恨んだこともありますが(今も時々思いすが….)、「転んでもただでは起きない」「役に立つ患者になろう」「退院したらいろいろなことをやろう」と考えるようにしました。無理やりそう考えました。面白いもので、頭の中でそう唱えているうちに、本当にそういう気持ちになります。

多くの人が
物分かりがよすぎるかもしれません。
もっとジタバタして
往生際が悪くても大丈夫。



- **本人と家族のエンパワーメント**
- **地元の強みを意識する**
→ **動きかた、リーダーシップに強みを活かす！**
- **健康部局と労働部局の連携を**
- **パーフェクトな解決策やモデルはない**
→ **「今よりマシに」が合言葉**